

津波災害遺産の保存

MLメンバー

- 津波被災遺構保全に賛同したメンバーの任意グループ
- 安藤生大:千葉科学大学(銚子ジオパーク構想)
- 伊藤和明:防災情報機構会長(日本ジオパーク委員会委員), 伊藤英之:岩手県立大学, 今村文彦:東北大学, 井村隆介:鹿児島大学(霧島ジオパーク), 岩松 暉:鹿児島大学名誉教授, 宇井忠英:北海道大学名誉教授(洞爺湖有珠山ジオパーク), 永広昌之:東北大学名誉教授(いわて三陸ジオパーク研究会副座長)
- 大石雅之:岩手県立博物館(いわて三陸ジオパーク研究会委員), 川端理香:大槌町出身(造船所にお父様), 越村俊一:東北大学(いわて三陸ジオパーク研究会委員), 越谷 信:岩手大学(いわて三陸ジオパーク研究会委員)
- 小山真人:静岡大学(伊豆半島ジオパーク推進協議会), 齊藤清一:糸魚川市(日本ジオパークネットワーク事務局), 齋藤徳美:岩手大学名誉教授, 定池祐季:北海道大学地震火山研究観測センター, 首藤伸夫:東北大学名誉教授, 竹谷陽二郎:福島県立博物館, 所沢新一郎:共同通信社会部
- 鈴木雄介:アジア航測(6月から伊豆半島ジオパーク専任研究員), 高木秀雄:早稲田大学(日本ジオパーク委員会委員), 中川和之:時事通信(日本ジオパーク委員会委員), 中田高:広島大学名誉教授, 原口強:大阪市立大学, 渡辺真人:産総研(日本ジオパーク委員会事務局、管理人)

遺構現地保存の意義

- 三陸沿岸は津波常襲地帯
 - 貞観・慶長・明治・昭和等 → 繰り返し被災を経験
 - ただし、石碑の多くは流出していない
 - 津波破壊力を想像できるモニュメントは少ない
- 一方、仙台平野など
 - 地名、神社名に津波由来のものはある
 - 石碑等のモニュメントは殆ど無い
- 防災教育の重要性(学校教育・社会人教育)
 - 文書・写真・映像だけでは実感に乏しい
 - 現場で、地震・津波などを想像できる素材が必要
- 東海・東南海・南海地震にも教訓
 - 三連発も予想→西日本にも役立つ
- 別途、水標(ポール)を設置する

津波遺産保存の視点

- 津波は普通の波とどう違うのか
- 津波は、すさまじいエネルギーを持っている
- 地震と津波の複合によって、どのような事態が生じるのか？強震、液状化、地形変化、
- 地形・場所によって、被害はどう変わるのか
- ジオパークの視点で考えると”大地の変動を語り伝える”ために地盤沈下が明瞭に判る場所とか、津波により削られてしまった露岩なども取り上げられるとよい。

- など、津波のすさまじさ・大切な点について理解するのに適切なもの、何があるかを早急に検討して、保存等、必要な対策を行う。

保存対象

- 残しやすそうな対象物は何か？
 - 目立つ物件にとらわれず、保存することによる維持管理の手間、経費が少ないものが望ましい。
 - 個人資産よりは公共物の方が私情を交えにくいし、補償がからみにくいのでやりやすいでしょう。
 - 特殊なものより、誰でも何であるか分かり易いものがよい。
- こうした条件で考えると津波で破損した港湾施設、道路施設、鉄道、公共建築物(例えば南三陸町防災庁舎)が良いのではないか。
- 対象物が存在する場所はできれば民有地にかからない方がよい。

活動内容:我々が今優先すべきこと

- 復興復旧計画が定まらないうちに保存の声をあげるべき対象物を多数特定する。
- ターゲットの管理者(多くは行政機関、他は鉄道・電力など)への提案と説得
- 広く目に触れるような発言の機会を増やす努力

<追加> 津波博物館も



雲仙岳災害記念館



人と防災未来センター

モニュメントだけでなく、学習の場を！

奥尻町において、 津波を伝える唯一のモノ資料



- 工事の標柱
- 日本海を漂流していたところを発見，奥尻町へ寄贈。
- 現在は展示施設「津波館」に設置されている。